

京都府議会議員

vol.5

## 堤じゅん太 活動報告

活動報告

今をよくする、未来へつなぐ。

堤じゅん太事務所 〒617-0823 京都府長岡京市長岡2丁目2-9小池マンション南棟1-A  
TEL 075-323-7890 FAX 075-323-7430

Fugikai Report Fugikai Report Fugikai Report Fugikai Report Fugikai Report Fugikai Report

## 9月定例会 一般質問に登壇！

## ◆ 潜在的な待機児童の解消に向けて ◆

京都府はこれまで保育所や小規模施設の整備、保育士の確保などを行い、待機児童の解消に向けて取り組んできました。しかし「保育園落ちた」のブログで象徴されるように、その取り組みが府民ニーズの水準にまで十分に達しているとは言えません。

一方で、待機児童数を国の基準により調査した結果では、京都府下で64人しかいないという非常に低い数値となっています。これは子育て中の府民の肌感覚とはかけ離れた数字です。また国基準の調査には、自治体の判断により待機児童から除外しても良いとされる児童数が設けられているため、現状から離れたデータとして示される一因となっています。

これらの背景を踏まえて、効果的な待機児童解消に向けての今後の取り組みに関して質問を行いました。



▲ 9月23日 一般質問

**Q.** 現在の待機児童数の調査では、現状に即した府民のニーズを十分に把握できていないのではないのでしょうか。現状に即したデータに基づかなければ、有効な待機児童対策を講じる事ができません。府内に於ける潜在的な保育ニーズの実態把握をどのように行っているのか、今後どのように対応しようと考えているのか、対策を教えてください。

**A.** 平成28年4月1日現在の国基準による待機児童数は、府内で64人と集計されています。これに加えて今年から新たに潜在的な待機児童の調査を行ったところ、「特定の保育施設を希望」が646人、「保護者が育児休業中」が44人、「保護者が求職活動を休止」が25人、「地方独自事業を利用」が27人、合わせて742人の潜在的な待機児童が府内にいる事が分かりました。京都府では、この3年間で約3,000人の定員増を図って待機児童の削減を着実に行ってきました。しかし、一部市町村では予想を超えるスピードで保育ニーズが高まっている状況にあります。地域的な需要を見通しながら、施設整備を前倒しで行います。

**Q.** 64名の待機児童の内訳を見ると、長岡京市が46人、亀岡市が12人、向日市が6人と特定の地域に偏って発生しています。これら自治体も待機児童解消に向けた積極的な取り組みを行ってきましたが、追い付いていません。今後、待機児童が発生している自治体に対してさらに手厚く支援する必要があると考えますが、ご所見をお伺いします。

**A.** これらの市町村に於ける待機児童の解消を最優先課題として、潜在ニーズを含めた受け皿整備を「待機児童解消加速化プラン」に位置づけ、補助率の引き上げなど保育所整備を重点的に進めています。特に待機児童が集中して発生している0～2歳児の受け皿となる小規模保育施設の整備を積極的に進めています。加えて、保育人材の確保についても返還不要の貸付制度の創設や、府・市・関係団体による保育人材確保・養成対策協議会を設置し、待機児童の解消に全力を挙げて取り組んで参ります。

→裏面へ続く

